

いつも心の中に



(撮影：森清)

未来の世界を

Shigeaki HINOHARA

日野原重明 (聖路加国際メディカルセンター理事長)

1911年山口県生まれ。1937年京都帝国大学医学部卒業。聖路加看護大学学長、聖路加国際病院院長、ハーバード大学客員教授等を歴任。医師・医学博士。聖路加国際病院名誉院長、一般財団法人ライフ・プランニング・センター理事長、公益財団法人聖ルカ・ライフサイエンス研究所理事長などを兼務。勲二等瑞宝章および文化勲章受章。『生活習慣病がわかる本』『生き方上手』ほか著書多数。

私は戦前の昭和12年（1937）に京都大学医学部を卒業し、2カ年の卒後研修ののち、2年間大学院の真下俊一教授のもとで「心音」の研究をしました。そして、昭和17年（1942）7月から東京の聖路加国際病院（現在の聖路加国際メディカルセンター）に就職し、現在、理事長を務めています。

京都大学には、6年前に「こころの未来研究センター」が創立され、第12号の巻頭言を私が執筆することになりました。

歴史の長い京都大学に「こころの未来研究センター」があることを理解しておられない京都大学卒業生が少なからずおられると思います。そこで私はこのページをお借りして当センターの活動に触れてみたいと思います。

当センターは、学術広報誌として本誌を年に2回刊行しています。

私は旧制第三高等学校を経て京都大学に入学しまし

た。日本が軍国化に向かいつつある不穏の時代でありましたが、当時から京都大学には自由の思想が輝いていました。それはいつも未来志向であるということでもありました。当センターはその伝統を受け継いで活動を展開しています。

私たちはいつも心の中に未来の世界を描かなければなりません。京都大学は将来の時代をいつも考えて行動した人材を大勢輩出してきました。言論の自由が封鎖された時代にあっても、その苦難の中に自由と民主的な日本の将来を実現するために、社会運動に身を投じた先輩が少なからずおられます。

以上のことから、京都大学の未来研究は、京都大学の伝統の中に創り出された当センターにおいて取り組まれていくべきものと思います。私は本欄でそれを特に強調し、在校生のみでなく卒業生もこぞって当センターに特別の関心をもたれることを希望する次第です。